

## 令和5年度学校評価（職員・保護者）の結果から

### 教職員自己評価

12月19日（月）～1月13日（金）

### 保護者アンケート

12月16日（金）～1月18日（日）

### Q1～Q23

教職員・保護者共通の質問【集計結果 上段が教職員、下段が保護者】

### 教職員・保護者共通の項目について

今年度も「Microsoft Forms」による回答方法にした。この方法での学校評価も3年目となり、教師はもちろんであるが保護者にとってもだいぶ定着してきたようである。

今年度は、新型コロナにおいては5類への分類となり、学校行事においても、3年ぶりの・・・といった開催が多くあった。昨年度は、ほとんど生徒の様子を見て頂く機会がなく、保護者には回答が難しいとされた質問もあったが、教職員との差異や、昨年度との差異を見る必要があったため、質問については大きな変更はしていない。

○紙媒体で回収する方法に比べて集計業務が格段に改善された。

○「Microsoft Forms」による回答方法に変更してから回収率は安定している。

R2・41% → R3・89.6% → R4・79.3% → R5・79.0%

○新型コロナが5類に移行したとはいえ、インフルエンザも含め感染症等による学校閉鎖や学級閉鎖が何度もあった。また学校行事の縮減や部活動の制限等もあり、従来の学校生活が完全に戻ってきたわけではなかった。しかしながら可能な限り学校を公開し、4月の授業参観をはじめ、学期末の保護者面談、体育祭や合唱祭においても保護者に参観していただく機会を設けた。さらに生徒たちの様子を映像やメール配信、おたより等で保護者の方へお伝えするよう心掛けたことで各質問においても肯定的な回答の割合が高いといえる。

○肯定的な割合（そう思う・ややそう思う）において、昨年度と比べ保護者の評価が大きく上がった項目

8	学校は、生徒の実態をよくつかみ、いじめや暴力のない集団づくりに積極的に取り組んでいる。	R5	88.8
		R4	72.4
9	学校は、登下校の安全や交通ルール・公共の場でのマナーに関する指導を十分に行っている。	R5	88.9
		R4	75.5
23	コロナ禍で活動に制限がある中、工夫された形でPTA活動が行われており、活動内容も適宜家庭に伝えられている。	R5	92.8
		R4	82.5

○否定的な割合（あまり思わない・そう思わない）において、昨年度と比べ保護者の評価が大きく上がった項目

4	学校は、配付文書やホームページ等を通じて教育目標・教育方針等をわかりやすく伝えている。	R5	8.6
		R4	11.1
5	学校は、各種たよりやホームページ・配信メール等を通して、学校からのメッセージや生徒の様子などをよく伝えている。	R5	8.3
		R4	11.1
6	学校は、生徒が安全・安心に生活できる場としてふさわしい環境づくり（施設・設備の充実）に努めている。	R5	6.7
		R4	12.6
7	学校は生徒のケガや事故、生徒指導上の様々な問題について、スピード感をももって適切に対応している。	R5	4.5
		R4	12.6
14	学校は、コロナ禍で教育活動に制限がかかる中で、学校行事や生徒主体の教育活動を工夫し行っている。	R5	9.6
		R4	12.6

15	学校は、特別支援教育の充実に努め、特別な支援が必要な生徒に丁寧に関わっている。	R5	8.9
		R4	12.6
16	学校は、学習規律（時間・挨拶・話の聞き方・発言の仕方）についてきちんと指導している。	R5	5.5
		R4	14.2
21	学校は、感染拡大防止のために、感染防止の具体策の徹底や、生徒の意識高揚を図っている。	R5	6.1
		R4	15.1
22	学校は、ガイドラインに則り、部活動指導を通して、生徒の心身の育成に努めている。	R5	10.6
		R4	15.6
23	PTA活動が学校と連携した支援として活性化されており、活動内容も適宜各家庭に伝えられている。	R5	7.2
		R4	15.6

●職員と保護者で評価に大きな隔たりがあった項目

8	本校には正しい判断のもと自己決定し、責任のある言動のとれる生徒が多いと感じている。	職	70.9
		保	91.4

※昨年度に職員と保護者で評価に大きな隔たりのあった項目

- 8 いじめ暴力のない集団づくりの取り組み
- 9 登下校の安全、交通ルール、公共の場でのマナーの指導
- 10 道徳科の授業や各活動で、生徒の心を育てる教育の推進
- 11 教育相談や日常の指導において、個々の悩みや生徒間のトラブルに適切に対応

●職員の評価が厳しい項目

8	本校には正しい判断のもと自己決定し、責任のある言動のとれる生徒が多いと感じている。	4・3	70.9
		1・2	29.0
15	特別支援教育の充実に努め、特別な支援が必要な生徒に丁寧に関わっている。	4・3	83.9
		1・2	16.1
20	学んだ知識・技能を活用する能力が高められるよう、発展的内容の効果的な指導に努めている。	4・3	83.9
		1・2	16.1

●生徒の評価が厳しい項目

1	学校へ行くのが楽しい時が多い。	4・3	84.3
		1・2	15.6
8	家庭では、食事や睡眠時間の確保など、規則正しく健康定期的な生活を送っている。	4・3	84.3
		1・2	15.6
9	今後機会があれば、地域行事やボランティア活動に積極的に参加したいと思っている。	4・3	49.1
		1・2	50.9
11	家庭学習を欠かさず行っている。	4・3	84.3
		1・2	15.7
12	将来の進路や生き方について考える機会が多い。	4・3	75.5
		1・2	24.4

## 次年度に向けての改善点

### (1) 教職員自己評価より

「授業改善・授業力向上」について

今年度の研究主題「主体的・対話的な学びによるコミュニケーション能力の育成」とサブテーマ「～ICT機器を活用した授業実践を通して～」も3年目となる。コロナ禍による様々な授業制限も新型コロナの分類が5類に移行することにより大きく緩和された。特に1対1の対話による活動や、グループによる小集団での活動ではコミュニケーション能力の育成を図るために工夫を凝らした授業が展開できるようになってきた。またタブレットを活用したドリル学習や教科の授業でも活用が日常化してきた。昨年度以上にICT機器の活用を意識して授業を展開することを心掛け、個々によりスキルにも、意識にも多少の差がある状況であったが、全体的な使用率には向上が見られた。今後は、スキルの高い教職員により、効果的な活用の仕方などを学び合いながら、ねらいを明確にしてICT機器を活用する授業を実践していきたい。教科を超えての相互授業参観については、年間に何度か機会を設け、互いの授業力向上に結び付けたい。さらに、設問の「学んだ知識・技能を活用する能力が高められるよう、発展的内容の効果的な指導に努めている。」がやや低いことも踏まえて、ICT機器の活用と結び付けた改善に繋がる取り組みも意識したい。来年度も互いのスキル向上を目指し、授業研修を積んでいきたい。

### (2) 保護者アンケートについて

- ・Formsによる回答方法（回収方法）については、大分定着してきた。
- ・昨年度、保護者が答えにくい質問については、以下のように対応したのだが、今回のアンケートにおいても改善を要すると指摘されたことがあった。

①質問事項の改善を図る。（回答しやすい内容に）

②可能な限り学校を開放し、保護者が学校に来る機会を増やすことで生徒の様子を見ていただく。また積極的に情報を発信していく。



①質問内容についての指摘は特になかったが、回答項目について、肯定・否定の選択肢の他に「分からない」を入れてほしい、といった意見があった。検討したいと考える。

②十分な公開の機会を設けることはできなかったが、学校だよりをはじめとする各種たよりやマチコミメール等での情報発信については、高評価をしてくれている保護者も多い。情報の発信は、保護者の学校への理解・協力を得ることについてとても有効であると考え。無理のない範囲で継続していきたい。

### (3) 生徒アンケートについて

- ・生徒の評価が厳しい項目が4項目あったが、大きく学校での事がらと家庭での事がらに分けられる。学校での事がらについては、生徒にとって魅力ある学校づくりに引き続き取り組むことはもちろんのこと、家庭での事がらに絡めて、保護者の協力をさらに仰ぎながら改善を図る必要がある。また、地域社会の一員であるという自覚を持たせ、将来の生き方を踏まえた進路指導の必要があると考える。

以上の点ならびに学校関係者評価を、次年度の学校経営方針や重点努力事項に活かし、井野中学校の強みや生徒の良さをさらに伸ばしながら、より一層信頼される学校づくりを推進したい。